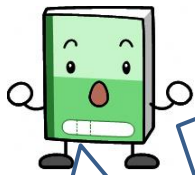


「指導と評価の一体化」のための学習評価（小学校音楽のポイント）【R2 NEW】



【R2 NEW】では、児童の記述例がさらに詳しくなりました。

- 目標に準拠した評価を行うために、「評価の観点の趣旨（※1）」を踏まえて評価規準を作成することが大切です。
- 知識・技能について…
 - 知識については事項イの文末を「～している」に変更して評価規準を作成します。
 - 技能については、事項ウの文末を、扱う分野に応じて「歌っている」「演奏している」「音楽をつくっている」より選択し、置き換えて評価規準を作成します。なお、「B鑑賞」の題材においては設定しません。
- 思考・判断・表現について…
 - 表現領域では①〔共通事項〕ア及び②表現領域に関する内容、鑑賞領域では①〔共通領域〕ア及び③鑑賞領域に関する内容の事項に応じて、それぞれ具体的内容に置き換え、文末を「～している」に変更して評価規準を作成します。
- 主体的に学習に取り組む態度について…
 - 「評価の観点の趣旨」の「表現及び鑑賞」の部分には、扱う領域や分野に応じて「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」より選択して評価規準を作成します。（以下に示す評価規準例の下二重線部）
 - 評価規準の文頭には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、子供に興味・関心を持たせたい事柄に関して記載します。（以下に示す評価規準例の下波線部）

（※1）評価の観点の趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構想などとの関わりについて理解している。 ・ 表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

<h3>題材名</h3> <p>曲のとくちょうをとらえて表現しよう 第4学年 「A表現・歌唱」「A表現・器楽」</p>	<h3>内容のまとめ</h3> <p>〔第3学年及び第4学年〕「A表現」(1)歌唱の活動 及び〔共通事項〕(1) / (2)器楽の活動 及び〔共通事項〕(1) 1</p>
---	---

1 題材の目標

- (1) 「とんび」、「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
- (2) 「とんび」、「エーデルワイス」の旋律、フレーズ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、**曲の特徴を捉えた表現**を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。
- (3) **曲の特徴を捉えて表現**する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組み、日本のうたやリコーダーに親しむ。

の部分に、本題材で大切にしているポイントが表れています。

※「題材の目標」は次のように1文で示すことも考えられます。

「とんび」、「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けながら、**曲の特徴を捉えた表現**を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりし、日本のうたやリコーダーに親しむ。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 技 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p> <p>② 知 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(歌唱・器楽)</p> <p>③ 知技 リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)</p>	<p>思① 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p> <p>思② 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p>	<p>態① 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・器楽)</p>

音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2(8)に示した「ア音楽を特徴付けている要素」や「イ音楽の仕組み」からその題材の学習での、子供の思考・判断のよりどころとなる主たる音楽を形づくっている要素を適切に選択して明記します。(下太線部)

(※2) 記録に残す場面…

効果的・効率的な評価を行うための工夫として、原則として、毎回の授業ではなく、題材を通してそれぞれの観点の実現状況が把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが大切です。そのため、評価した結果を記録に残し、総合的な評価を行う「記録に残す場面」を明示しています。

3 指導と評価の計画(5時間)

※ 丸数字…全員の学習状況を記録に残す場面

次	時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知技	思	態
第一	1時	◎「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。			
		<p>○「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いて感じたことを発表する。 ・ 歌詞を読んだり、とんびが空を舞う写真を見たりしながら、歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取る。 ・ 音程やリズムに気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱する。 ・ 曲の特徴的なところをワークシートに書いて発表する。 <p>(児童の記述例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピンヨローのところは、とんびが鳴きながら飛んでいる様子を歌っていて面白い。 ・ 歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌う。 			

矢印は学習状況について継続的に見取るようにしたことを意味しています。

丸数字の評価規準が設定されていない授業においても、教師の指導の改善や子供の学習改善に生かすために、子供の学習状況を確認するのは大切です。

第 一 次	第 1 時	<p>○「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3フレーズ（9～12小節）の「ピンヨロー」の部分について、とんびが鳴きながら飛ぶ様子や、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(児童の工夫例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とんびが鳴きながら近付いてきて、去っていく様子を表したいから、前半2小節はfで後半2小節はpで歌おう。 ・第1時で学習した表現を生かして、みんなで「とんび」を歌う。 </div>			
	第 2 時	<p>○旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、第3フレーズの「ピンヨロ」の部分について表現を工夫して歌う。 ・歌いながら、旋律の動きを手の動きで表す。 ・歌いながら第1、2、4フレーズの旋律の反復や、第3フレーズでの変化に気付いたことをワークシートに書く（第1フレーズ：1～4小節／第2フレーズ：5～8小節／第4フレーズ：13～16小節）。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(児童の記述例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1段目と2段目は上がったり下がったりする旋律の動きで、とんびがゆったり飛んでいる様子を表している。 ・1段目と2段目の旋律の動きがよく似ているけれど、3段目は全然違う。 </div> <p>○「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1、2、4フレーズと第3フレーズの動きの違いに着目して考えたり歌ったりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(児童の工夫例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2、4段目では旋律の音が上がるときクレシェンド、下がるときデクレシェンドすると、とんびがゆったりと飛んでいる様子が伝わるかな。 ・3段目は他の部分と違って、とんびの鳴いている様子を表せるように、遠くまで響くような歌い方で歌えるようにしよう。 </div> <p>○第1～2時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>技能に関する事項ウにおける「思いや意図に合った表現をするための技能」という位置づけに基づき、「思考力、判断力、表現力等」と関連付けた技能を見取るため、①<u>技</u>は<u>思</u>①の後に、③<u>知</u>は<u>思</u>②の後に、それぞれ評価しています。</p> </div>	<p>② <u>知</u> 記述・発言 ① <u>技</u> 聴取</p>	<p>① 記述・発言・聴取</p>	
		<p>◎「エーデルワイス」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。</p>			
第 二 次	第 3 時	<p>○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴を捉えながら、リコーダーの演奏を聴く。 ・3拍子の拍のまとまりを捉えて体を動かしたり、楽譜を見ながら階名唱をしたりする。 ・リズムを聴いたり楽譜を見たりしながらリコーダーで旋律を演奏する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>リコーダー演奏に関する<u>知</u>の習得状況について、継続的に把握しつつ、第5時で記録に残します。また、適宜、学習の改善に生かすことができるよう、授業中に働きかけを行います。</p> </div>			

第3時	<p>○運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運指に気を付けて曲全体を演奏する。 ・音色や響きに気を付けて、適切な息の強さやタンギングで演奏する。 			
第2次 第4時	<p>○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とんび」での学習を振り返りながら、旋律の動きとフレーズのまとまりを考えて、表現を工夫する。 <div data-bbox="236 338 1193 488" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(児童の記述例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半、上がって下がる旋律が反復されるところが「とんび」に似ている。 ・3段目の出だしははずんだリズムに変わって、生き生きとした感じになる。 </div> <div data-bbox="236 524 1193 667" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(児童の工夫例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2段目までは、4小節の旋律のまとまりをなめらかに吹きたい。 ・3段目は生き生きとした感じが伝わるように、タンギングを変えてみよう。 </div>	<p>② 知記述 ・ 発言 ・ 発言</p>	<p>② 記述 ・ 発言 ・ 聴取</p>	
第5時	<p>○前時までの学習を基に、グループごとに、「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2フレーズが再び現れるという反復など、音楽の仕組みを捉えて表現を工夫する。 <div data-bbox="236 891 1193 1131" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(児童の工夫例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2、4段目はなめらかに吹けるように、息の使い方に気を付けて演奏しよう。 ・3段目ははずむような感じだから、他の部分よりもタンギングをはっきりさせて吹けるようにしよう。 </div> <p>・旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて演奏する。</p> <p>○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏を工夫した点を紹介しながら発表する。 ・各グループの発表を聴き、工夫が表れていたところについて話し合ったり、その工夫を取り入れて全体で演奏したりする。 	<p>③ 知技 聴取 ・ 発言 ・ 記述</p>	<p>③ 知技 聴取 ・ 発言 ・ 記述</p>	<p>① 観察 ・ 記述 ・ 聴取</p>

③知技は、第5時の「エーデルワイス」のリコーダー演奏に係る知識と技能として、リコーダーの音色や響きと演奏の仕方の関わりについて気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付けて演奏しているかについて、学習状況を評価しています。
演奏の聴取を中心にしながら、補助的に発言内容やワークシートへの記述内容を判断の参考に、総合的に評価します。

態①は、第1時から第5時までに継続的に見取るようにし、第5時で記録に残しています。
継続的に見取ることを通して、知識・技能や思考・判断・表現の観点における達成状況を踏まえながら、発言内容に見られる学習への興味、友達の発言に対する反応、歌っているときの表情や体の動きの観察、歌声の聴取、グループにおいて表現の工夫に取り組んでいるときの様子や、リコーダーを演奏しているときの行動の観察から児童の学習状況を捉えるようにし、必要に応じて適宜、粘り強く取り組むよう励ましたり、授業のねらいを確認し自分なりに考えたり、友達の表現の工夫の特徴のよさに気付かせ、様々な工夫を試させたりするなどの指導改善につなげます。

【題材における観点別の総括的評価の例】

- 観点別の評価を総括する際には、次のような考え方があります。
 - ア 同等に扱って総括する**
 - イ 重点を置いて総括する**

2つの総括の考え方を、場合に応じて使い分けることが大切です。

 - 「知識・技能」については、②知は歌唱及び器楽の両分野にわたって評価を行うこと、③知技は知識と技能の両方の内容を対象にすることから、題材の終末に、より重点をおいて総括しています。(イ)
 - 「思考・判断・表現」については、指導内容に即して、思①、思②を同等に重要であると捉えて総括しています。(ア)
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、題材における学習内容に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりしているかどうかについて継続的に見取るようにし、学習状況を記録に残す場面は題材の最後のみで行うよう設定したため、総括は必要なくなります。